

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう、事業所の理念や方針を明確にするとともに職員に徹底している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>事業所独自の理念は見やすいところに掲示し共有している。また、理念に基づいた自己目標を定めて実践に向けている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には入所時や面会等で来訪の際、理念をわかりやすく説明している。 事業所のパンフレットにも理念を掲げ、地域住民にも理解して頂けるようPRをしている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>事業所周辺で農作業をしている方や散歩をする地域の方々と日常の挨拶やふれあいを持っており、地域の老人会と行事参加等の交流をもっている。 また、旬の野菜や山菜、手作りのお手玉など届けてくれるご近所づきあいを大切にしている。 法人内では認知症サポーターの講習会実施や管理者は認知症の理解や関わり方についてキャラバンメイトとして、地域で安心して暮らせる普及活動に参加している。</p>	<p>今後の認知症サポート養成研修として町内9箇所においてほのぼのの協力員や民生委員を対象とした研修を予定している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への不安を最小限にするため異動は最小限に抑えるように働きかけているが、代わったときはコミュニケーションを通じ入居者に説明している。ケアや対応の仕方を統一することで入居者の動揺やダメージを防ぐ努力をし、1日も早く新しい職員と馴染めるよう全職員でサポートしている。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
17 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアを通じ、職員相互で介護技術の確認をし合ったり、地域密着型サービスについての理解を深めている。 OJTは併設特養と一緒にいき、OFF JTにはなるべく参加し、研修報告書や資料を全員で閲覧し、必要に応じて事業所内で勉強会を開催し理解を深めている。		
18 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の連絡会や地区のグループホーム協会等で意見交換はじめ勉強会、施設訪問をして交流しながら、日常生活や活動を通じ自施設での気づきを得ながら改善へと繋げサービスの向上を目指している。		
19 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	年次休暇の他、リフレッシュ休暇、特別休暇があり、心の健康に配慮するとともに特養職員との交流がもてるように休憩室を同じにして気分転換を図っている。職員互助会の活動も積極的に行っている。		
20 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は、職員が向上心を持って働けるよう年度始めに全職員に自己評価と自己計画表を作成させ、個別の業務や悩みの把握に努めたり、研修参加や資格取得などを勧めている。 また、年2回の健康診断を実施し職員が心身ともに健康で働ける環境づくりをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子やホームでの出来事等を報告したり、行事や面会時には情報交換したりし、ご家族や親族との関係が途絶えないように努めている。ご家族や親族からの情報は職員間で共有し入居者に対し家族同様の立場で支援するよう心掛けている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人やご家族、関係者から生活歴などの情報を収集し、本人のご家族に対する思いを受け止めるとともに、ご家族には日頃の状態報告や相談をしながら、より良い関係を保つことができるよう努めている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす顔馴染みの知人、友人の来訪を積極的に受け入れ、地元の話や近況を教えてくれる交流を大切にしている。また、こちらから訪ねて行く場合もあり支援している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	世話役の入居者に働きかけ、入居者同士の関係作り、個性を生かす場面作りを職員がサポートしたり、15時のおやつ時には職員も一緒にテーブルに着きお茶を飲みながら会話を持つようにしている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で退居された方には、ご家族からその後の経過を伺うなど相談にのれるように努めている。また、退居者の多くが併設特養に移っているため日頃より行き来し、顔馴染みの関係が途切れないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>			
<p><b>1.一人ひとりの把握</b></p>			
30	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりやご家族からの聞き取りを通じ、思いや意向の把握に努めている。また、言葉や表情から推測したりして、本人の思いを理解するよう他方向からアプローチしている。それでも困難な場合は、本人にとって好ましいと思われる対策を検討し実施している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人やご家族、親族からの情報収集により生活歴の把握に努め、より良いサービスに結びつけるように努めている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の関わりや介護記録等を通じて一人ひとりの暮らしや生活リズムの把握に努めている。 個人の生活パターンを理解し、どんなに小さいことでも本人のできる力を引き出すよう心掛けている。</p>	
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族には面会時や電話で思いや意見、アイデア等さりげなく聞くようにしている。介護計画作成に当たっては、アセスメントも含め職員で話し合い、モニタリングや意見交換、カンファレンスをして本人やご家族からの要望も取り入れ、作成するようにしている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は定期的または必要に応じてケアカンファレンスを行っているが、他に月2回はケース検討会の日時を設けてより良いケアサービスに繋げている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアの実践・結果や気づきや工夫の欄を分け見やすくし、入居者の言葉やエピソードなどを記録にしてケアの統一を図っている。記録は業務開始前に目を通すよう取り決め情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>特養と併設しているので看護師始め機能訓練員、その他職種の協力体制がある。また、高齢等により個浴が困難な入居者には機械浴やリフト浴などの利用が可能である。</p>		
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域のボランティア団体や保育園、小・中・高校生との交流を積極的に行っている。また、実習生やボランティアを受け入れしホームの機能を地域に開放している。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>必要に応じて包括支援センターや居宅介護支援事業者等のケアマネジャーと連絡を取り合い、ご本人の意向を聴いてより良いサービスが受けられるように支援している。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現在、必要な入居者がいないが、今後本人の意向や必要性に応じ協働していきたい。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の受診経過やかかりつけ医を把握し、本人やご家族が希望するかかりつけ医に繋げ、適切な医療が受けられるようにしている。また、受診前後の相談や報告、その後の経過についても報告している。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体施設の嘱託医がご家族や職員の相談を受け助言してくれるが、必要に応じて専門医へ受診している。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設特養看護師の協力体制があり、医療処置や相談指示など支援を受けている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は介護サマリを提出し日常のケアの方法や特徴など医療機関に情報の提供をしている。 入院後5～7日で見舞いに行き、状態や経過を聞きながら早期退院ができるよう情報交換をしている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が安心してサービスを継続できるよう日常の健康管理や重度化の対応などについて、本人ご家族の意向を確認している。また、重度化やターミナルに向けて家族の意向を再確認し、かかりつけ医、看護師の協力を元に全員で方針を共有している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人ご家族の意向を踏まえて、重度や終末期の対応について十分な説明と同意書を頂いている。併設特養の嘱託医がかかりつけ医の場合は看護師や他職種の協力体制があることから終末期の支援が可能である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は個々にあわせて提供している。毎食時、献立に沿って話題を膨らませ、耳や目など五感で楽しむようにしている。入居者に役割があり、テーブル拭きなど簡単な作業の手伝いを実施している。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好調査をし、好みを知ったうえで栄養バランスや摂取量を考慮し、昔馴染みのおやつを取り入れたりしている。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介護記録を通じ、個々の排泄パターンやリズムを把握し随時排泄の誘導や介助、確認をしている。入居者の不安やプライバシーにも配慮しなるべく失敗しないで気持ちよく排泄できるよう支援している。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は声かけから着脱までの一連の流れを同一の職員が行い個々のペースにあわせたケアを実施している。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々のリズムを把握している。夜間不眠の入居者には職員が落ち着くまで側で支援している。昼食後、午睡の時間を設けソファーやじゅうたんで休めるようにスペースを確保し、夜間も安眠できるよう午睡時間に注意している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者はそれぞれ昔ながらの経験や知恵を活かした、得意分野を持っている。職員はその力を活かしながら、みずの皮むき、豆のさやとり、テーブル拭き、チラシの箱作り等日々のケアに取り入れ役割持ってもらっている。一人ひとりを知る意味でもこのような機会を大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し自己管理できる人は小銭で2千円程度持っている。買い物支援の際は、お金を使う機会があるものの、自分のお金はもったいないと話し使わずに、ご家族が事務に預かっている所持金から支払う場合が多い。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やショッピング等に出かけたり、春から秋は月2回野外活動を計画し近隣の道の駅を中心に実施している。また、入居者の希望があればこれ以外にも個別に外出支援をしている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎年、秋に家族会ショッピングを実施しご家族や子供たちと楽しい時間を過ごせるよう支援している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設特養に公衆電話があるが、ダイヤル操作が困難なので、職員が代行し電話をつないで支援している。遠くのご家族からホームに電話が来た際も電話口まで介助したり、手紙が届いたときも返事の代行をしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は入居者と一緒に歓迎している。居室でくつろいで頂きプライバシーにも配慮しながら、お茶等準備しゆっくりと過ごせるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行わない方針であるが、やむを得ない場合(点滴施行時)は必ず、ご家族に説明し同意を得ることになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険を回避できるように玄関にセンサー取付けているが、日中は入居者の行動を察知したら声掛けしたり、一緒に行動するなどし安全に心掛けているため鍵は掛けず開放している。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入浴や掃除、シーツ交換の際も入居者の対応が出来るようにリビングに見守りの職員を配置している。夜間はリビングにて全居室が見渡せる場所で見守りし定時の巡回のほか、必要に応じ随時対応している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況変化によって注意を促していくなどしている。薬剤や包丁、工具などの危険物品は保管場所を決め入居者の目の届くところには置いていない。また、裁縫道具やはさみ等の貸し出しもしているが、使用后担当職員が確認し確実に回収している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者に起こり得るリスクを検討し事故を未然に防ぐ努力をしている。事故発生時は、報告書やヒヤリハットの報告が義務付けられ対応策はリスクマネジメント委員会で検討し再発防止に注意している。賠償責任や災害時等の不慮の事故に備え賠償保険に加入している。また、離設行為を想定し、行方不明検索マニュアルを作成した。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時対応のマニュアルを作成し、慌てず対応できるようにしている。また、併設特養の職員の協力体制も出来ている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	マニュアルを作成し、年2回入居者・防災協力員と共に火災を想定した避難訓練を行っている。避難経路の確認、消火器の使い方、通報の仕方等業者の方から指導を通じ訓練している。非常用飲料水は確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者の状況が変化し始めた時、一人ひとりに予測されるリスクをご家族に説明している。説明は状態に応じ、入居時やその都度話している。また、起こり得るリスクについて定期的に見直し、予防策にも積極的に取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの持病や特徴を把握し、顔色や兆候等観察するようにしている。バイタルチェックや変化時は、記録に残し状況を見て受診につなげている。変化時は、管理者や併設の特養看護師に報告すると共に職員間でも情報を共有している。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が入居者の内服薬を理解し、副作用など変化が無いかどうか、内服が変更した際も特に注意している。内服薬の仕分けも職員が行っているため間違いが無いよう記録に残している。服薬時は本人に手渡し服用の確認と誤薬が無いようにしている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の水分摂取量や排泄の状況が一目でわかるよう記録に残している。水分が不足しがちな入居者には、ゼリーを活用したり、献立にも果物や乳製品を増やしたり、適度な運動や散歩を促しつつ自然排便に向け取り組んでいる。状況に応じて腹部マッサージも行っている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの習慣をつけ、個々の状態に合わせた声かけや介助を行って口腔衛生に努めている。また月1回は歯科衛生士による義歯洗浄を行っている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設特養の栄養士がバランスを考えた高齢者向けの献立を作成しており、一日の食事摂取量や水分量はわかるように記録表で確認している。また、個々の咀嚼状態を考慮し食事形態等の工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防と早期発見・早期対応に努め、マニュアル作成しOJTを通じて勉強会をしている。また、感染症の流行や対応策について保健所等から情報収集し手洗い等の励行をしている。毎年、入居者および家族に同意を頂き職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		
76 食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	全職員が自己の健康管理、手洗い、うがいの徹底をし、台所、調理器具、冷蔵庫の清潔・衛生管理に努めている。食材は翌日の使用分を前日午後に検品し買いためはしていない。まな板や布巾、食器、器具等もマニュアルを作成し、こまめに漂白している		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にスロープを設置したことで、車椅子や老人車等での訪問も可能になった。違和感や威圧感を感じさせず玄関が明るい雰囲気になるようにプランターや鉢植えを置き環境整備をしたり、季節感が出るような装飾に取り組んでいる。		
78 居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気・空調・照明の配慮、季節感や生活感を出すため観葉植物や季節に応じた飾り付けをしている。入居者と一緒に草花を楽しみ四季に応じた会話がもてるようにしている。		
79 共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはじゅうたんやソファを配置しくつろげるようなスペースを確保している。共有スペースのリビングには、椅子を置き自由に座れるようにし、廊下には写真を見たり外を眺めたりしながら自由にできるスペースがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>リビングから窓伝いのテラスに自由に出ることが出来、段差が無いので車椅子も楽に移動できる。テラスにはミニ菜園があり、向かいの田んぼの稲の生育や花や野菜の収穫も楽しんでいる。天気の良い日は岩木山を見ながら、日向ぼっこをする入居者がいる。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者とのコミュニケーションを大切に、一人ひとりの思いや意向を把握しその人らしい暮らしを支援するように努めている。  
母体施設の栄養士による献立の支援や看護師・機能訓練員の協力がある。またケアに当たっては、特養・グループの区別なく、館内は全職員の見守りや協力体制があり、安心して生活できる環境にある。  
入居者の重度化に伴い機械浴やリフト浴などの設備や、エアマット・各種車椅子などの福祉用具を身体状況に合わせて母体施設から活用し、住み慣れた環境で生活できるよう柔軟な支援をしている。  
ホームの行事は特養と合同で、企画・実施しており、季節行事や地域住民とのふれあいを大切にし地域の一員として生活できるように支援している。